

令和6年度 第3回酒田市公共施設適正化懇談会 議事録要旨

日 時 : 令和6年7月24日(水) 14:00~15:10

場 所 : 市役所第二委員会室

参 加 者 委員/前田茂男、阿部公一、村上祐美、長谷川正彦(代理)、樋渡隆(代理)
小林正利、佐藤賢一、後藤由美、菊池裕基、高橋靖、舘石承太郎
(敬称略・ : 事務局/齋藤財政課長、前田社会教育課長、鈴木松山総合支所長、阿部平田総
順不同) 合支所長、小林財政課長補佐、成澤財政課アセットマネジメント主査、
齋藤財政課アセットマネジメント係主任

資 料 : ・次第、委員名簿等
・松山及び平田地域の公共施設の在り方について 資料1
・酒田市公共施設適正化懇談会意見まとめ 資料2

【結果】

- ・ 懇談会の意見まとめは案どおり了承。
- ・ 再配置案は地域と意見交換をしながら検討を進める。

【議事詳細】

(委員長) 適正化のたたき台は、具体的なイメージがないと議論しにくいいため作成した。考え方を整理する上での各論として認識してもらいたい。先日、平田総合支所をひらたタウンセンターに移すことについて、平田地域の皆さんと意見交換をし、大変厳しい意見をいただいた。支所はシンボリックな建物なので活用すべきという意見があった。今後、全体の自治会長とも意見交換させてもらいたい。

事務局が資料1と2を説明

(委員長) 最初に振り返りと各論について記載させてもらった。各論が良いか悪いかを判定してもらうわけではない。各論は基本的な考え方にに基づき、地域と話し合いをしていくことになる。適正化の議論は総論賛成、各論反対となって進まないのが実情である。まずは資料1で質問があるか。

(委員) 2点ある。一つは平田健康福祉センターの利用件数約2,500件、ひらた農村コミュニティカレッジ拠点施設と合わると約4,500件の利用があるが、稼働率はどのように算定しているのか。二つ目は、平田総合支所廃止の効果額は、総合支所の建物の維持管理費のみで人件費は入っていないのか。

(事務局) 稼働率は、貸出可能コマ数に対する実際の貸出コマ数である。午前、午後、夜間で貸出しており、実際に貸し出しがあった場合に計算しているため、低い率になる。平田総合支所の支出は施設管理の職員人件費は入っているが、正職員の人件費は入っていない。貸出可能コマ数は、部屋ごとに午前、午後、夜間の3区分があり、部屋もたくさんある。その全体に対する貸出件数となり、午前中の利用が多く、午後や夜間は少なくなるため、稼働率はどうしても低くなる。

(委員長) 平田健康福祉センターの稼働率は11%で、他と比べれば稼働率は良い方。実態を表しているかといわれると、使用している割合だけの感触でいいのかという部分はあると思う。

(委員) 件とは人数なのか。

(事務局) 人数ではない。1時間1コマで貸している部屋もあれば、1コマ4時間で貸している部屋もあり、時間単位だと件数が多くなる。

(委員) 統合した場合、増員になるのか。例えば、健康福祉センター4人、コミュニティカレッジ4人の場合、統合したら8人となるのか。

(委員長) 職員数の変更はない。平田健康福祉センターとコミュニティカレッジはタウンセンターとしてみれば一つになっている。その機能自体は変わるわけではない。そこに総合支所を持ってくるとのことなので、対応する人数は変わらない。

(委員) 老朽化しているため統廃合をするのだと思うが、スポ少では、冬の活動場所を確保しにくい。利用者や件数も多い状況で、開催日程はある程度決まっており、調整できると思うが、ストレスなく開催できるような形で進めていければ良い。

(委員) 今使いたいと思っている施設を残したとしても、これから利用する年代を考えると、子ども、高校生、大学生が使いたいと思えるような施設を残していかないと、若者が流出していく。私たちが使いたい施設だけでなく、子ども世代が使いたいと思える施設を残していかないといけない。

(委員長) 体育館は稼働率が高く、特に冬期間奪い合いになる。一方、集会室、研修室、調理室は利用率が低迷しているため、将来を見据えて考えていく必要がある。平田自治会長会の役員の皆さんから意見をもらっているが、総会でも議論させてもらいたい。

(委員) 平田健康福祉センターに移転したいという話があったが、サービスを提供できるのか疑問。スペースもかなり狭くなり、迷わずに目的地まで行けるような案内も必要。色んな考え方があってと思うので、できる限りたくさんの意見を聞いて検討してもらいたい。

(委員長) 平田自治会長会とは、8月5日と26日に胸襟を開いて議論させていただきたい。

(委員) 施設を集約すると、移動距離が長くなるのは仕方ない。分かりやすい案内方法をお願いしたい。

(委員) 未来のことを考えていかないといけない。今必要だからではなく、10年後には老朽化がどんどん進んでいく。施設を徐々に減らしていくことは必要で、統合も必要。コミセンの体育館もどんどん使わないともったいない。松山体育館は老朽化しているが、使えるだけ使っていくしかないと思っている。

(委員) 人口減少や維持管理費のことも必要な考え方であるが、利用人数が少ない施設を多く抱えるよりも、集約して活性化を図っていくということを示してはどうか。イベントや交流を通して地域づくりをするために統廃合や複合化を進めるということ、全面に出してもらった方がよいのではないか。

(委員長) コミセンの体育館を使うことで体育館の奪い合いの状況がもう少し改善されれば良い。公共施設の再配置の打ち出し方は丁寧に行いたい。

(委員) 私が懇談会のメンバーとして選ばれた理由は、社会教育委員であるため。昨年度は社会教育施設の出羽遊心館などを検討し、利用者の代表者に来てもらい、利用してもらうにはどうすればよいかということをもとめた。一方、今回は地域住民に対する公共サービスの提供問題を孕んでいるため、まとめるのが難しい。意見まとめの基本的な考え方で、利用者の意見も伺いながらとあり、徐々に代表の方々の意見のヒアリングをしているとのことだった。総合文化センターの利用者が減ってきている。文化センターの利用者は生涯学習や社会教育に限定されているため、それを緩和してでも利用者を増やしていきたいと社会教育課は考え

ている。LINEや紙媒体でアンケート調査を実施し、次回の委員会で結果が出る予定である。意見が大きく異なるものは、市民意見を伺うプロセスの方が重要ではないかと思う。アンケートに答えてくれる人がどのくらいいるか分からないが、たたき台としてそれが出発点になる。中央公民館の利用者を増やす取り組みとして、大人数が集まる施設がない地域や、民間にも使用を認めるという方法がある。スーパーやATMの設置、マルシェの開催、ネーミングライツを導入するなど、公民館の貸館機能を含めて運営する方法もある。Wifiがあるかが重要で、国の補助も使いながら、デジタル公民館という大きな方向性に向かっていく方法もある。

公共施設は民間施設ではないため、収益だけでなく、地域サービスを維持するために検討する必要があるのではないかと。民間は利益が出なければ売却する。住民の立場から考えると、施設がなくなったときのマイナス部分を酒田市へ発信すれば残すことができる。統廃合によって不便になる場合には、集約後の移手段への補助なども、住民としては交渉材料になるのではないかと。将来に禍根を残さないため、住民向けのアンケートをたたき台にすることも考えられる。住民の立場からと市の立場からと中立的に意見を言わせてもらった。

(委員長) 8月5日に平田自治会長会の役員、8月26日には平田の自治会長全員と意見交換を行う。自治会長会とのみ話して決めるわけではなく、広く意見を聞きながら進めていく。LINEアンケートも含めてしっかり意見を聞いた上で、最後の決断をしないといけない。公共サービスは利用していただくのが第一である。ただし、限界を迎えている施設もあるし、統合が必要な施設もある。移手段の意見もあった。前回、50年、100年後を見据えたあるべき姿を考えるべきという意見ももらった。市街地に集約することも将来的にはあるかもしれないが、今打ち出すことは難しい。地域活動は必要であり、マイクロバスなどで移手段を確保することも視野に入れながら進めていきたい。

資料2の主な意見に、将来を見据えて必要な施設は残すということを加えてもよいかもしれない。総合支所機能は必要という意見もあれば、せめて窓口機能は必要だという意見もあるだろう。窓口に行く必要がないDXを進めていく中で、コミセンに窓口機能を置くこともあり得る。総合支所機能は将来的にはなくなるとは思うが、必要な機能は何かを検討していく必要がある。コミュニティ組織も、今後は組織の統合が自発的に起こり、1つの施設にまとめて入ることもあると思う。意見まとめは資料2の9、10ページの内容でどうか。

(委員) 南部コミセンや内郷コミセンの体育館ではテニスもできるのか。できない場合、冬期間不便で、使える種目が限られてくるのではないかと。

(事務局) 備品としてネットや支柱を整備する必要がある。南部コミセンはソフトテニスのサークルも使っているので、問題ない。

(事務局) テニスはできるが、旧小学校体育館は小さいため、一面は取れない。

(委員) 松山体育館がなくなり、テニスができなくなるのはどうかと思った。

(委員長) 松山体育館できて、旧松山中学校でできないということは基本的にはない。

(委員) 2区の神社関係の総会を松山農村環境改善センターと平田農村環境改善センターとで持ち回りでやっている。松山と平田が統合し、松山農村環境改善センターへ行くのであれば、平田からバスの運行は当然必要だと思う。老朽化しているが、農村環境改善センターのようなものがないとイベントができなくなる。松山に丈夫でしっかりとしたものがあればどちらでもいいと思う。それも含めて話し合いの中でできる限り前向きに進めたい。

(委員長) 市役所0Bの平田の自治会長と話したときに、平田農村環境改善センター、ひらた生涯学習センター、平田総合支所の3つの大きい施設を整理して議論してもらえるとありがたいと言われたので、参考にしたい。

(委員) 全天候型のB&G海洋センターやひらた生涯学習センターはイベントで使い、独断で

バスも出している。努力しないとイベントが開催できない。

(委員長) 前回、平田農村環境改善センターを松山と統合する場合、バスの送迎補助をすることを提案していたが、今回は平田農村環境改善センターを残す案になっているので、今後検討していく。懇談会のまとめとしては資料2のとおりまとめさせてもらいたいよろしいか。

(一同) 了。

(委員長) では、資料2は懇談会のまとめとしてさせていただきたい。資料1は市の考え方として、地域に入って意見交換を進めていく。

3 その他

なし